

令和6年（2024年）度行政評価シート【個表】 令和 6 年 8 月 2 日

評価対象事業		評価者	作業センター所長 小田切 勝己	
都整-32	作業センター事業	☒ 自治事務	主管課	作業センター
		☐ 法定受託事務	関連課	
総合計画上の位置付け	分野	行財政運営		施策の方針
				行財政運営

1 事業の目的

対象	市民等
意図	市民の安全性、利便性、快適性への迅速な対応を確保するため。
効果	安全で円滑な交通の確保、親しみやすい河川・緑地等の形成を図る。

2 令和5年(2023年)度を実施した事業の概要

道路、河川、緑地等の維持補修及び側溝、管水路の浚渫を行った。

3 事業を構成する事務事業(最小事業)実績

枝番号	事務事業	実施した主な事業 (主な経費等)	指標(単位)	令和5年度		令和6年度	達成度
				指標(実績値/目標値)		指標(目標値)	
				事業費(決算/当初)(千円)		予算額(千円)	
01	作業センター維持管理事業	事務執行及び施設管理	-	- / -	-	-	-
				840 / 1,227		1,183	-
02	作業車等維持管理事業	車両の維持修繕	-	- / -	-	-	-
				4,375 / 6,100		5,104	-
03	道路、河川、緑地等の維持補修、側溝、管水路の浚渫	市民要望等による道路等の維持修繕	達成率(%)	74.5 / 98.0	98.0	98.0	76.02%
				135,188 / 171,916		172,344	
		財源内訳	国県支出金	/			
			地方債	/			
			その他特定財源	/			
			一般財源	140,403 /	179,243	178,631	
		事業費の合計(千円)		140,403 /	179,243	178,631	
		人件費(千円)			95,472	98,599	

4 この事業に関わる職員数(毎年度4月1日時点)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
正規職員等	19.0	17.8	12.0	12.0	11.6	
会計年度任用職員	0.0	2.0	2.0	3.0	5.0	

5 評価結果

(1) 最小事業評価

枝番号	事務事業	指標分析の推移、目標未達の理由	上位施策にどう寄与したか、構成する事業としての妥当性	事業実施上の課題、改善点
01	作業センター維持管理事業	—	—	—
02	作業車等維持管理事業	—	—	—
03	道路、河川、緑地等の維持補修、側溝、管水路の浚渫	要望受付から施工完了までには一定の時間を必要とするため、年度内98%の処理率を指標とした。令和5年度は、第一四半期に予期せぬ正規職員退職による減員があり、処理率が低下した。	道路、河川等の維持補修等対応を行うことで市民生活の安全性、利便性、快適性に寄与していることから、構成する事業としては、妥当である。	経年劣化による道路舗装等の補修や、河川・緑地の保全といった要望が増加している一方、職員の高齢化、体調不良、想定外の退職等に伴う減員により、マンパワーが不足し、要望処理率が低下している。一層の事務効率化と外部委託の積極的な活用を図るとともに、委託の拡充に向けた継続的な事務環境整備を図った。

(2) 視点別評価

効率性	事業費の削減余地はないか	1 事業費の削減余地はない
	事業の外部化(民営化・業務委託等)はできないか	2 外部化に向けて検討できる事業がある
	関連・類似する事業の統合はできないか	3 統合できる事業はない
妥当性	各事業の実施に対する市民ニーズはあるか	1 市民ニーズは変わらずにある
	民間によるサービスで代替できる事業はないか	3 民間によるサービスで代替できる事業はない
有効性	事業の上位施策に向けた貢献度はどうか	1 目的達成のために適切な手段(最小事業)である
公平性	受益者負担は公正・公平か	△.負担未導入 △-3 受益者が特定できないため、受益者負担を求めることができない
協働	市民等と協働して事業を展開しているか	△.協働未実施 △-2 市民等と協働して実施する事業はない
		協働実施済の場合のパートナー

(3) 総合評価 ※最小事業評価を踏まえて、今年度以降の取組方針等を記載する

【今後の方針】	☐ 拡充	☐ 改善・変更	☒ 現状維持	☐ 縮小	☐ 休止・廃止
道路の交通の安全性の確保、河川・緑地の保全、側溝、管水路の浚渫など、市民の社会基盤の保全を行っており、市民生活の安全性、利便性の確保に向けた迅速な対応に努めていく。 市民生活へ貢献寄与しており、迅速に成果を出している事業となっている。					

【参考】

◎事業実施に係る主な指標

指標(単位)	要望処理率						単位	%
指標設定理由	年次	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
作業センターの業務は、修繕要望等に対する処理であるため、その処理率の高さが市民の快適な生活の指標と考えられる。	目標値	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	
	実績値	76.7	82.1	80.4	74.5			
	達成率	78.2%	83.7%	82.0%	76.0%			

指標(単位)							単位	
指標設定理由	年次	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
	目標値							
	実績値							
	達成率							

◎他市比較・ベンチマーク(県内外自治体など他自治体や民間団体との比較値)

比較事項								
団体名	鎌倉市							
他市実績								

当該事業実施に伴う 他市比較に関する考え方	
--------------------------	--